

福成会の
ちよつと素敵なた話

「勇気づけ」

No. 5



私が咽頭癌手術で声帯全摘出してから二年後、社会復帰の機会を与えてくれた福成会には感謝しています。

咽頭癌手術で声を失った時、全く自分の未来が見えていませんでしたが、社会復帰できたことで考えを改めることができました。

「未来が見えないことは決して悪いことではありません。それは未来に無限の可能性があるということ」だと思います。

今のところに就職した当初は、今まで経験したことのない職種であり、いつまで続くか全く自信がありませんでした。

私が話しをする際は、永久気管孔を指で塞いでからしか話すことができないため、スタッフや利用者さんから話しかけられてもすぐには返答ができない自分を悔

しく思っていました。が、月日が経つにつれ、そんな思いも徐々に薄らいでいきま
した。

病院では「咽頭癌手術で声を失うことに不安を感じ、手術に踏み切れない患者が
いる」と聞いています。

医師はそういった患者に、私が話している動画を見せて説明しているそうです。
それでも不安な患者には、私が直接お会いして勇気づけをしています。

このようなボランティア活動ができるのも、福成会の影響があると思います。

どうすれば勇気を持つことができるか。

自らの主観によって他者に貢献できていると思えること。他者に関心を寄せるこ
とと私は思います。

そして、横の関係を築き、勇気づけのアプローチをしていく。誰かの役に立っているという生きることへの実感につながり、まわりまわって私の生きる勇気につながっていくと思います。

私は身体障害者であることを少しも恥じていません。

このような私が働くことでスタッフや利用者さんが少しでも勇気を持ってもらえればと思っています。